

令和4年9月16日

厚生労働省

健康局長 佐原 康之 殿

予防接種推進専門協議会

委員長 岩田 敏



参加学術団体(23 団体)：

(公社) 日本小児科学会	(公社) 日本小児保健協会	
(公社) 日本産科婦人科学会	(公社) 日本小児科医会	
(公社) 日本産婦人科医会	(公社) 日本婦人科腫瘍学会	
(一社) 日本感染症学会	(一社) 日本保育保健協議会	
(一社) 日本呼吸器学会	(一社) 日本環境感染学会	
(一社) 日本渡航医学会	(一社) 日本耳鼻咽喉科学会	
(一社) 日本プライマリ・ケア連合学会	(一社) 日本老年医学会	
(一社) 日本小児期外科系関連学会協議会	(一社) 日本性感染症学会	
(一社) 日本女性医学学会	(一社) 日本臨床内科医会	
日本ウイルス学会	日本ワクチン学会	日本細菌学会
日本臨床ウイルス学会	日本嫌気性菌感染症学会	(順不同)

高齢者の肺炎球菌ワクチンに関する要望

2014 年 10 月から高齢者の肺炎球菌感染症は定期接種対象となり、インフルエンザと同様に B 類疾病に位置づけられている。高齢者の定期接種ワクチンである 23 価肺炎球菌ポリサッカライドワクチン(PPSV23)接種の国内におけるワクチン血清型による肺炎球菌性肺炎及び侵襲性肺炎球菌感染症(IPD)に対する予防効果はそれぞれ 33.5%、39.2%と報告されている¹⁾²⁾。しかしながら、2013～2019 年に実施した成人 IPD サーベイランスにおいて、小児 PCV13 導入に伴う成人 IPD 症例への間接効果が明らかとなっているのに対し、PPSV23 に固有な血清型に起因する 65 歳以上の IPD 症例の割合に有意な減少は認められなかった³⁾。この所見には複数の要因が関与した可能性が推定されるが、65 歳以上の高齢者に対する定期接種率が 2014 年以降に 30%台 (2019 年は 13.7%) と低迷していることがその主要な要因と考えられる。

わが国の予防接種法において、A類疾病は主に小児ワクチンの対象疾患であり、集団予防、重篤な疾病の予防に重点がある。また、本人および保護者の努力義務が課せられ、接種が勧奨されている。これに対し、B類疾病は、個人予防に重点があり、努力義務はなく、接種勧奨もない。B類疾病の目的と接種勧奨・努力義務の要件については、2001年にインフルエンザが定期接種に位置づけられた時に決定されたと考えられる（当時は二類疾病）。

わが国において、高齢者の肺炎球菌感染症が定期接種対象になった2014年当時と比べて、現在の成人IPDの疫学所見は大きく変化し³⁾、ワクチン接種効果はより明確になっている¹⁾²⁾。しかしながら、実社会における高齢者の定期接種による個人予防効果は明確になっていないのが現状である。このような背景から、高齢者の定期接種対象者の接種率向上は喫緊の課題である。

予防接種法においてB類疾病には接種勧奨なしとされているものの、実際には約7割の市町村は当該年度の定期接種対象者に対して肺炎球菌ワクチン接種の個別通知を送付している⁴⁾。このため、高齢者肺炎球菌ワクチンのさらなる接種率向上のためには実地臨床医家による接種啓発が重要と考えられる。また、予防接種法における高齢者肺炎球菌ワクチンの接種勧奨・努力義務の要件が実地臨床医家による接種啓発活動に影響している可能性も考えられる。

以上の理由から、高齢者の肺炎球菌感染症における接種勧奨・努力義務の要件についての再検討を要望する。

尚、主要な先進国における成人の肺炎球菌ワクチンプログラムを参考資料として示す。

(参考文献)

- 1) Suzuki M, et al. Serotype-specific effectiveness of 23-valent pneumococcal polysaccharide vaccine against pneumococcal pneumonia in adults aged 65 years or older: a multicenter, prospective, test-negative design study. *Lancet Infect Dis*. 17:313-321, 2017.
- 2) Shimbashi R, et al. Effectiveness of 23-valent pneumococcal polysaccharide vaccine against invasive pneumococcal diseases in Adults, Japan, 2013-2017. *Emerg Infect Dis* 26:2378-2386, 2020.
- 3) Tamura K, et al. Dynamic changes in clinical characteristics and serotype distribution of invasive pneumococcal disease among adults in Japan after introduction of the pediatric 13-valent pneumococcal conjugate vaccine in 2013-2019. *Vaccine* 40:3338-3344, 2022
- 4) 村上義隆他. 65歳高齢者における23価肺炎球菌ポリサッカライドワクチン(PPSV23)接種率および接種啓発活動の実態に関する全国調査. *日本公衛誌*. 65巻:1号20-24, 2018.

(参考資料)

主要な先進国における成人の肺炎球菌ワクチン接種プログラム

	対象	推奨
米国	65歳以上は全員 (PCV未接種、過去の接種歴不明) 19~64歳は特定の基礎疾患、ハイリスク者	PCV15-PPSV23連続接種、またはPCV20推奨。医療保険でカバー。 PCV15-PPSV23連続接種、またはPCV20推奨。医療保険でカバー。
英国	65歳以上全員 2-64歳のハイリスク者	PPSV23を推奨、無料。 PPSV23を推奨、無料。
ドイツ	60歳以上全員 16歳以上の特定の基礎疾患を持つ人と免疫不全者	PPSV23を推奨 (6年以上の間隔を空けて再接種)、医療保険制度でカバー。 基礎疾患ではPPSV23、免疫不全などはPCV13-PPSV23 (6年以上の間隔を空けて再接種)、医療保険制度でカバー。
カナダ	65歳以上は全員 18歳以上のハイリスク者、免疫不全者	PPSV23が推奨、無料。 PCV13-PPSV23連続接種 (その5年後PPSV23)。
オーストラリア	70歳以上 基礎疾患、ハイリスク者	PCV13を推奨、無料。 PCV13、2~12ヶ月後にPPSV23推奨、5年以上後にPPSV23再接種。無料。
フランス	65歳以上の成人 免疫不全、基礎疾患を有する成人。	定期接種制度なし。 PCV13-PPSV23連続接種推奨。
イタリア	65歳以上 19-64歳の特定の基礎疾患を持つ人と64歳未満の免疫不全者	PCV13-PPSV23連続接種推奨。 PCV13-PPSV23連続接種推奨。
韓国	65歳以上は全員 65歳未満のハイリスク	PPSV23を推奨、無料。 定期接種制度はなし。
日本	65歳以上は全員 60~64歳の重度の基礎疾患等を持つ者	定期接種制度あり (PPSV23接種)、接種勧奨なし、費用負担あり。 定期接種制度あり (PPSV23接種)、無料。